

青年より見たる青年期

文二ノ四 新田、蚊泉、和田、安吉、水野

只今私は、青年より見たる青年期と云ふ題目のもとに聊か研究致しました結果を、發表致したいと存じます。青年期は、身體上にも精神上にも色々變化あり特徴のある時期でございますから、是れを一々研究いたしますと甚だ多方面に渡るのであります。然し私共は、青年期の特色の中心問題とも云ふべき情緒的方面のみを主に研究いたしました、又、教育上から云へば、訓育の方面を研究したのでございませぬ。私共の研究致したのは、懸問的統計法と申しまして、或る問題を提供して多くの人々の答を得てそれを統計し、その結果を其の問題の結論としたのでございませぬ。その材料は本校文科全體と、四年全體の方々に願ひ申しましたのでございませぬ。従つて年齢から申しますと、廿歳前後、即ち青年後期に當

るものでございませぬ。研究の結果を青年期の特色、青年期の矛盾、青年期の要求の三つに分ちて申しあげたいと存じます、勿論、矛盾は特色の一部でございませぬけれども、私共は、實際生活に當りまして、この矛盾に特に苦しむのでございませぬから、別に申しのべるつもりでございませぬ。(以下スタンレーホール
の青年期の研究はこれを省略す。)

(32)

青年期の特色、

一 敏感性、

一 自然物、

イ 草花に對して、

1 美しく咲き誇つてゐる花を見て何だか淋しい様な氣がする、それは、たゞ咲いてばかりゐるからだと思ふからだ。

2 暮春の落花を見て宇宙の不思議を思ふ。

3 花片の一片／＼が風にゆらぐを見て胸騒がする。

ロ 海に對して、

1 青き海原を見て宇宙の大秘密でも貯へてゐる様な氣がして、果てしなき海に身を委せてあくがりたい。

2 海を見て、平和と云ふ感じと共に反對な恐ろしいと云ふ感じがする、つまり、底が如何に深いかと思ふとたまたまなく恐ろしくなる。

ハ 月に對して、

1 満月か新月はすきだが、所謂中途半端の月は大きらひだ。

2 月は淋しい。

二 宇宙に對して、

1 宇宙の廣さを見て自分の存在がいやになる。

2 宇宙の偉大にして神秘的なるを見ても、只生活の爲めに醒醒してゐるのがつまらなくなり何だか絶對者を求めたいと宗教心を起す。

三 人物に對して、

1 農夫などを見ても、只生活のために田野にゐると思はず大なる秘密の鍵を握つて自然を支配してゐるやうである。

2 美裝の奥様連を見て、あれでも安月給取りの妻にて内情は如何ならんとその裏までも考へる。

3 人が笑ふのに一寸したくせがあると、何だか意味ありげに見えて氣になる。

二 自意識の發達

1 自分の欠點が明らかになり、自分を滅したく、自己不満は益、強く、一寸した事にも精神を動搖して神経は疲勞し、日々の學課もいやになる。

2 自分があまりわかり過ぎて、何故自分は勉強するか、勉強は果して自分を作るかと考へて自分が分からなくなり不安が襲つて来る。

3 自分を知らんとすると共に、他人に對しても批判的態度を取り、いやに人の短所をさぐり長所を見出さんとつとめる。

(33)

三自己中心及び自己尊長、

1 自分は十九歳の弱年でありながら早くも自覺して居る、恐らく自分程大きなホープを以つて入學したものはあるまい。

2 自分が少々詩や文を作つて、何だか詩人、大小説家、思想家になり得る、否、先天的にかゝる天才がある様に思はれ、著作の一つもして見たい。

3 自己の意見が最もよいと思ふから、容れられないう不快にて、他人の意見に従ふ事が出来ぬ。

四虚榮心の強きこと、

1 自分の好物でも、然しあのやうなものを欲しいといつては他人が笑ふであろうと、わざと欲しくないやうな振りをする。

2 自分が人によく見られんとする情切なるため、随分偽善的な行爲や言葉を平氣で出す。

3 自分程よく考へ、よく修養するものはないと他人に思はれたいばかりに、特に先輩者、自分の監督者などに思はせ振りをしたり、讀みもしない先哲聖賢修養書など讀むといはんばかりにし

て見る。

五破壊的革命的行爲を好む、

1 静肅なる場所に臨んで何か大聲でも出して動搖させて見たい。

2 自分を束縛する凡ての規定などと云ふ姑息なものも皆破壊して見たい氣がする、然し、社會主義者のやうな意味ではない。

六信仰心に對して、

1 何か信念を得たい、神の實在を認めて之れに従はんと思ひ、色々絶對者に對して研究する、求めんとあせる結果得られず迷ひ、不安を生じてくる、物足りない云ふ状態になります。

2 神も絶對者も何も求むる所なし、神も我の一部なり、宗教何かせん、頼むは自分以外になし。

3 我々青年は未來に對し又絶對者、神などの觀念なく、絶對者、神などをしきりに有難がつてゐるものを見ると、疑をはさまざるを得ない。

以上は青年期の特徴を書き連ねたのでございますが、刻一刻と變り行く情緒的方面、然かも青年期と云ふ意味ある時期でございますから、あげればまだ

まだ澤山ございしますが、一寸申しましても皆様のおかき下されました中に、「自分は青年一般の事は知らないが、自分は自分のことを發表いたします。」と云ふのを見受けますのを見ても、青年は常に自己發展をなさんとしつゝあることがわかります。かゝる特徴を有する青年は、如何に實際生活に於て矛盾をなしつゝ苦しみますかは次におわかりになります。

青年期の矛盾、

一自負と謙讓、

1 自分程つまらぬ者はない、折角此の學校へ入つたのにこれだけの事を習ひ得たばかりと悲觀する。傍世の人を見ては實に氣の毒な人だ、只女學校を卒業したばかりで満足してゐる、自分などは實に偉いものだと思ふ。

2 自己の力の小なるを自覺すると共に、こゝに悲觀起り、努力はさまで効果なし。遊び暮せと自暴自棄にもなるが、又どうして／＼人の頭はまあドングリの脊競べ位なれば、我は奮起一番一仕事なして呉れんと思ふなり。

3 世間を批評し、家庭の女子の自覺なき事を冷

笑することしきりなり。然るに又己れの思想淺薄にして、己も彼等の位置に立ては何等勝れたる事なからんと不安を感ず。

4 實に身體も人に勝り、相當の頭もありと父母祖先に感謝の念を捧げてゐます、然し、或る事を行ひます中には實に自分の力は微々たるもの自分の精力は足らないと幾度か叫びたいので御座います。

5 或る時は非常に信仰の價値を認め、又或る時は非常に之を卑下することあり。

二孤獨を樂しむ心と厭ふ心の矛盾、

1 なるべく人をさげ友をもさけて、一人靜かに坐して、見る事もなくぼんやりと外を眺めてゐる事が、此上もなく満足な境涯として親しく感ぜられます。それでも、一方にはこの偏屈な自分の心を嘲けつて、淋しげなみすばらしい自分の姿を見て悲しくなり、華かな生活を人と共に送りたいと思ひます。

2 自分は世の中に親もいらぬ、兄弟も友もいらぬ、孤獨がいゝと考へる事があるかと思ふ

ど、ある時は又其親や、兄弟や、友がなつかしく堪まらず、自分と云ふものが其等の人のために生きてゐる様な心地もする。

三 智識に對する興味と冷淡

1 自分は吞氣に一時でも過されぬ様に思つてゐるのに、時には全く心を空にして遊んでゐる。

2 勉強しよう努力をしようと思つて非常な思ふ時がある、それがいつしか忘れた様に放縱な、不規則な、怠惰な生活になつてしまふ。

3 眞の我は眞劍、熱烈、眞理に向つて突進しつゝあるものなるが、日ねもすノタリ／＼の我を見出しておごろく。

四 利己と他愛

1 自分は自分さへ完全になればいい、親兄弟はごうでもよいと思つてゐる、それなのに時々は親兄弟に對する愛情が燃えて、たとひ自分は犠牲になつても親兄弟をよくしたいと思ふ事がある。

2 自己の發展を切望する自我中心の心と、親の

爲家の爲に、つくす自我犠牲の心と、二つの矛盾したものがいつも相撲をとつてゐるために苦しむ。

3 何か他人に氣にさわる事を云はれると大きに腹をたつ、然し後にア、之は自分を理解して呉れぬからである、先方に悪意あつての事でないと思ふ、よく考へると腹立つ事は少しもない、然しそうすると、何時も罪は自分ばかりになる様でなげなくなる、どこまでも自分が悪くないと、證據立てる程の屈竟な敵がほしくなる。

五 自己の方針等に對する矛盾

1 自分は、生涯獨身で暮して獻身的に教育事業に従事せうと考へたり、又自分は將來一家の主婦となり、圓滿なる家庭を作り、夫をよく助け子女を教育せんと思ふ。

2 自分はあの怒濤激浪の打ちよする荒磯や、地平線遙かな砂漠の村や、アラル海、裏海の邊で世にも美しい音楽を聞いて思ふさま心に響かせたいと思ふ。然し又一方に、自分の理想はナポレオン、女子では奥村五百子の様な人で、又彼

のシーザーやアレキサンダー大王の如き實に自分の胸中にひそむ或る何物かを煽て上げる様な心地がする。

3 自分は物怖れのせぬ男子の様な女になりたい其くせ女らしい女を見ると氣持がよく、あんな人にもなつて見たいと思ふ。

4 尼になりたいと思ひ又妻になりたる時を夢見る。

5 學校を卒業したら、山にでも引き籠り、念佛三昧に一生を終ろうかとも思ふ、又ある時は九州にでも行つて大炭坑持となり、大學卒業生でも幾人どなく使つて、女大實業家になつてやらうとも思ふ。

6 何處までも學習をつゞけて智識欲を満足させて見たいが、其他面には、一日も早く家庭の人として理想的に子女を教育したくもある。

青年期の要求

一、青年の心理を理解し同情してほしい。

二八

二、相談相手がほしい。

一六

三、青年の人格を認めよ。 九
四、無干渉を望む。 九
五、我々よりも社會が覺醒してほしい。 三
六、女子教育の程度を高くし、且つその活動の範圍を廣くすべし。 三

結論

私共が研究いたしました結果と、從來の青年期の研究の結果とを比較して見ますと、全く一致するのございました。それで、この時期は前にも述べましたやうに矛盾の多い時期でございます。その原因は、青年期の特色に於て見ても明らかにわかります通り、刹那々々の刺戟に深く感じまして、その刺戟が強く身體にひやく爲めに起るのであります。更に説明いたしますと、自意識が鋭くなるからであります。幼兒期は自我的生活にも、物的生活にも自他の區別が不明でございます。換言いたしますと、自、他兩方面の意識が發達して居りませんが、學齡期になりますと、他意識が明らかとなり、之により自他の區別が明かになります。青年期になりますと自意識が之に加はり、一種特別なものとなるので御座いま

す。幼児期は、前述のやうに自他の區別が明らかでありませんから、凡ての事が非現實的であり、青年期には現實を通過した主觀的のものが多くなつてまゐります。又幼児期は自他の區別がない處から、自我生活に於ても甚だ無差別であります。學齡期には自他の區別が甚しくなり、征服的、競争的生活が強くつゞき、青年期になりますと主觀に基いた相互的性質が著しくなつてまゐります。

青年期の訓育

この時期に於て、青年に充分なる自由を與ふることは必要な事であり、是と同時に相當なる監督を爲し、善良なる方面へ指導する事も、亦、必要であります。しかしながら、ごこまで自由をあたへ

ごこまで監督すべきかは實際にあたりもすこやかなかむづかしいことであり、指導者が青年の心的統一と云ふ事を重じ過ぎますと、新しい事の起る時期を失つて進歩をさまたげます。しかし監督について少しも顧みない時は、青年それ自身でさへも不可解な心理状態にあるのでありますから、どんな不都合な事が起るかも知れません。それで、指導者は、理解的の同情を以つて適當なる自由と監督との間に青年に接して行かなければなりません。自由ある監督、監督ある自由は青年を教育する場合に最も大切な心得と申さねばなりません。終りに望みまして、當問題の研究について御親切に御指導下さいました倉橋先生を初め、色々問題に對してお答へ下さいました皆様に對して深く感謝いたします。

横須賀港の沿革

我等、曩に横須賀軍港を見てその壯大なるに驚きしが、今回同港にて本年九月廿七八兩日に於て海軍工廠創立並に開港五十周年の祝典を舉行せしを機としてその沿革を調査することとせり。

抑々横須賀港は我國貿易場として出船入船の跡をたゞぬ横濱港が維新前一漁村たりしと同じく、亦僅かに十三の戸數を有する一漁村に過ぎざりき。然るに一度幕府が製鐵所(造船所)をこの地に設くるや次第に發達し、今日にては人口七萬三千を數ふる大都市をなしたり。横須賀人士がこの造船所のために盛宴を張りしも亦宜なりといふべし。

史を按ずるに、弘化嘉永以降外船頻りに來つて互市を促すや、幕府二百餘年の泰平の夢さめて、鎖國政策を一擲して大船製造の禁を解き航運を奨励し、歐

式海軍を創め、或は亞米利加、和蘭國へ軍艦製造を委託し、又は留學生を派遣する等各方面に施設する所ありしが、更に進んで一大船廠を江戸灣に創設せんとす。

これより先、幕府の造船所としては長崎製鐵所、江戸石川島の造船所の二ヶ所ありしのみ。それさへその規模極めて小さくして、實は修繕の用にも造船の用にも適せざれば、幕府はその船を上海に廻航せしめて修繕するの不便を感じ居たり。一大船廠創設の計畫はこゝに起れるなり。

(甲)幕末の横須賀

横須賀造船所設立の起原

この時に當り、小栗上野介勘定奉行を以て外國奉行をも兼ねしが慧眼夙に時勢を洞察し、極力異論